地表面からわずか 1m にも満たない深さで、約 1,500 年前に築かれた当時のままに、古墳の表面をおおった葺石（ふきいし）が姿を現しました。わずかな調査範囲の中で、盗掘の際に運び出された蓋石（ふたいし）もみつかりました。（坊の塚古墳）

轍

わだち

各務原市埋蔵文化財調査センター年報　第 24 号

ISSN 2189-6372

平成 27 年度、鵜沼地区で行った 2 つの発掘調査で、地域の歩みを物語る貴重な成果が得られました。

坊の塚古墳
ぼうのつか

坊の塚古墳は、墳長約 120m と市内最大の前方後円墳であり、県下でも第 2 位の規模を誇ります。今回の調査では、後円部斜面に試掘溝を設け、後円部の残存状況を確認しました。

調査部分のほぼ全面で古墳を覆っていた葺石(ふきいし)が残り、予想以上に保存状況が良いことがわかりました。斜面の中ほどには、葺石のない平坦面があり、墳丘の段を成していると思われます。調査部分から推定される古墳の構造は、右下の写真に重ねた白線のようなものとなります。

また、古墳に立ち並べられた埴輪(はにわ)の破片も出土しています。これまでにも埴輪は表面採集で見つかっていますが、今回の調査では、円筒埴輪に加えて、壺形埴輪、赤彩や焼成前に底部に穴をあけた壺形埴輪と思われるものが出土しました。

埴輪

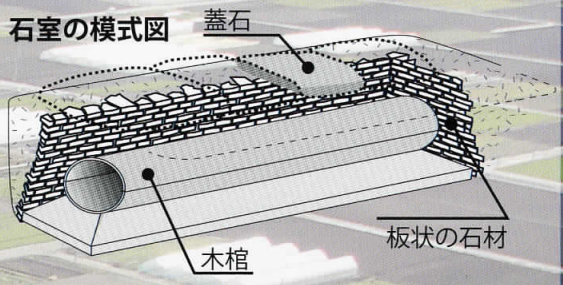
調査区域内からは、墳丘斜面に転落した埋葬主体の蓋石も見つかっています。(表紙写真)長辺 2.85m、短辺 1.38m を計る大型のもので、推定で 2.5 ～ 3t もの重量となります。長辺側の両側辺は精緻に加工が施され、平滑に仕上げられており、隣り合って同様の蓋石が並び、3 枚以上の巨石で石室が覆われていたと思われます。

▼犬山城

蓋石の石材は砂質凝灰岩で、これほどの大きさのものは近隣では産出せず、遠隔地から運ばれてきたものと推定されます。

過去の盗掘によって崩された石室の構築材と見られる板状の石材も見つかっています。表面には赤彩の残るものもあり、埋葬主体が赤彩を施された石室であることも判明しました。

石室の模式図



板状の石材

調査成果から、坊の塚古墳はその規模にとどまらず、墳丘構造や埋葬主体などにおいても、東海地方屈指の古墳にふさわしい内容であることがうかがえます。さらに出土遺物を他の古墳と比較するなど、引き続き平成 28 年度以降も調査を継続していく予定です。

調査で見つかった埴輪や石材は、埋蔵文化財調査センターで展示しています。

鵜沼古市場遺跡

うぬまふるいちば

坊の塚古墳から見下ろす木曽川べりの地で、平成 26 年度に続き、発掘調査を行いました。同時期に調査を行った坊の塚古墳とあわせ、古代の主要道と木曽川の渡し、水上交通を考える上で、貴重な成果が得られました。

次ページへ

前ページから

木曽川の渡河地点に位置するこの地は、古くから交通の要衝として機能してきたと思われ、すでに弥生時代には川湊（かわみなと）を思わせる資料が見つかっています。

弥生時代中期から後期にかけて、木曽川べりに半径50mほどの円弧を描く溝で囲まれた空間が設けられ、溝の中には土器がまとまって納められました。これらの土器は、墓や祭祀の場で供えられるものであったり、意図的に穴を開けるなど特殊なものです。溝は川湊を特別な空間として隔てるためのものだった可能性があります。

溝の中から出土した弥生土器

鵜沼古市場遺跡からは、古墳時代の石製模造品も見つかっています。剣や鏡などを象った儀礼の道具は、川や峠など交通の要衝の地で、道をふさぐ神に手向けられたものと考えられます。

水上交通がもたらすモノや、川が隔てる対岸の他地域との交流に、この地での儀礼が欠かせないものであったのかもしれません。木曽川べりに位置する鵜沼古市場遺跡は、背後に鵜沼の古墳群を抱える地であり、こうした祭祀が行われていた場であったことがうかがえます。

坊の塚古墳で見つかった大きな蓋石も、木曽川を舟で運ばれ、この川湊で陸揚げされた可能性が考えられます。

写真提供・犬山市教育委員会

各務原市埋蔵文化財調査センター　〒504-0914　岐阜県各務原市三井東町４丁目 32 番地
TEL 058-383-1123 FAX 058-383-8655